

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

加古川市立八幡小学校

I. 学力状況調査結果の分析

八幡小学校の平均正答率は、右表に示した兵庫県や全国と比べ、同程度もしくはやや高い傾向を示しています。問題形式の正答率をみると、国語・算数ともに選択式や短答式で解答する問題の正答率は高いのですが、記述式で解答する問題が弱い傾向にあります。

教科	正答率 (%)	
	兵庫県 (公立)	全国 (公立)
国語	67.0	67.2
算数	63.0	62.5

学習指導要領の内容や領域からは、国語では【話すこと・聞くこと】【書くこと】に比べると、【読むこと】のポイントが兵庫県や全国よりやや低い傾向となっています。算数では、【図形】【変化と関係】のポイントが若干低く、【式と計算】のポイントが非常に高い結果となりました。
(注：文部科学省、加古川市教育委員会の方針により、各学校の正答率は公表しないことになっています。)

○国語【平均正答率が全国や兵庫県と比べてどうなのか】

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分考えをまとめる力に課題が見られます。
- ・漢字を文の中で正しく使うことができ、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができています。また、日常よく使われている敬語をよく理解しています。

○算数【平均正答率が全国や兵庫県と比べてどうなのか】

- ・表から条件に合う数を読み取ることが苦手という傾向がみられます。また()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることがやや弱いという傾向もみられます。
- ・ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができています。

II. 学習状況調査(児童質問紙)から

- ・日本や住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っている児童が多いです。また、今住んでいる地域の行事には積極的に参加していると答えた児童が多く、地域との関わりの深さが伺えます。
- ・各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っており、自分の考えを発表する機会には、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しようとしている児童が多い学年です。

III. 今後取り組むこと

○国語の授業では

- ・書いたり読んだりする目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く活動を多く取り入れます。文章を考えたり書いたりすることによって、考えを深めていく力、自分の感情を表現する力、筋道を立てて自分の意見を述べる力を伸ばします。

○算数の授業では

- ・算数の用語を用いて事象の関係を適切に理解し表現することや、方法や理由を条件に基づき、言葉や数を用いて必要な事柄を記述することで、基礎基本の定着をはかります。また、多くの情報から必要な情報を精選し、知りたい数量の求め方を考え、式や言葉を用いて記述する活動を大切にします。

八幡小学校では、今後も「できる学力」(知識・理解)とともに、「わかる学力」(思考・判断・表現)を身に付けることを目指して授業改善に取り組んでいきます。また、どの教科においても、協同的探究場面を設定し、自分の考えをまとめたり、相手の意図を捉えたりする力をつけるために、書く活動や伝える・表現する活動を多く取り入れ、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきます。